

令和8年度第1回岡崎市地域公共交通会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和8年5月1日（金）15時00分～17時00分

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館2階 福祉201号室

3 出席者氏名

(1) 出席者（23名）

松本	幸正	委員	（名城大学 理工学部社会基盤デザイン工学科 教授）
松尾	幸二郎	委員	（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授）
夫馬	康昌	委員	（名古屋鉄道（株））
寺澤	秀樹	委員	（愛知環状鉄道（株））
後藤	泰之	委員	（名鉄バス（株））
藤田	信彰	委員	（名鉄東部交通（株））
浅岡	林平	委員	（愛知県タクシー協会岡崎支部会）
小林	裕之	委員	（（公社）愛知県バス協会）
猿渡	博士	委員	（愛知県交通運輸産業労働組合協議会）
多々内	丈雄	委員	（岡崎商工会議所）
平岩	幸一	委員	（岡崎市総代会連絡協議会）
鷺山	幸男	委員	（岡崎市老人クラブ連合会）
加藤	歩	委員	（岡崎市障がい者福祉団体連合会）
山本	深雪	委員	（岡崎市社会福祉協議会）
宮本	貞夫	委員	（六ツ美中部学区エリアバス運営協議会）
山下	文男	委員	（額田地域生活交通協議会）
柵木	朗	委員	（矢作デマンド実行委員会）
江川	晃平	委員	（国土交通省 中部運輸局）
原田	光一郎	委員	（国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局）
植田	尚通	委員	（愛知県都市・交通局 交通対策課）
安藤	文敏	委員	（愛知県西三河建設事務所 維持管理課）
中本	雅文	委員	（愛知県警察岡崎警察署 交通課）
鈴木	晃	委員	（岡崎市 副市長）

(2) 出席者（意思表明書提出 1名）

井上	雅隆	委員	（東海旅客鉄道（株））
----	----	----	-------------

4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

岡田 晃典（総合政策部長） 富田 浩也（交流戦略課長） 竹内 雅晴（副課長）
尾崎 諭（主任主査） 稲垣 康彦（主査） 澤田 和樹（主事）
安藤 寛人（主事）

5 傍聴者、随行者等

10 名

6 説明事項

- (1) 活発でよい議論ができる会議のために
資料 2 に基づき愛知運輸支局・原田委員より説明
- (2) 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部改正について
資料 3 に基づき中部運輸局・江川委員より説明
- (3) 岡崎市内の公共交通モードについて
資料 4 に基づき事務局より説明

7 協議事項

- (1) 会長及び副会長の選出、監査委員の指名について

資料 5 に基づき事務局より説明

<協議結果>

委員の互選により、会長に名城大学・松本委員、副会長に豊橋技術科学大学・松尾委員が選出された。

松本会長から、監査委員に岡崎市総代会連絡協議会・平岩委員及び岡崎市老人クラブ連合会・鷺山委員が指名された。

- (2) 令和 7 年度決算報告（案）について

資料 6 に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員：歳入のうち補助金の額が 3,014,000 円から 5,269,000 円とかなり増額になっているが、その理由は何か。

事務局：令和 8 年度の歳入予算も同様だが、地域公共交通計画アップデート推進化推進事業の補助金が内定前であり、当初の歳入として予算化していなかった。

委員：地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金について、予算額 3,014,000 円に対して、2,677,000 円に減少している要因が分かれば教えてほしい。

事務局：補助の上限額が変更になったためである。

委員：現在、社会的に物価が高騰しており、バスの運行に係る経費も上がるという中で、

補助金が下がってしまうことに危機感を覚える。

委員：国の予算の範囲内で補助している中で、令和 6 事業年度と令和 7 事業年度では国庫補助上限額の算定式の違いがあった。

委員：物価の高騰に合わせて補助額を増やしてもらえるとありがたい。

<協議結果>

監査報告がとおる前提の案として承認。監査結果は事務局より改めて報告する。

(3) 令和 8 年度事業計画（案）及び予算（案）について

資料 7 に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員：高齢者バスの補助について、実施時期は決まっているか。

事務局：国の補助の説明会が今月に行われる予定だが、現状では実施時期は決まっていない。

委員：名鉄バスの運転体験会に関して補足はあるか。

委員：新入社員の教育にも使う補助ブレーキの付いた車両を用いて、安全第一に運転体験を行ってもらう。現状、約 10 名の予約がある。

委員：小さいころからバスに乗り慣れていないと、大きくなっても乗り方を知らず、バスが利用されない。せっかくこういったイベントをやるなら、名古屋の方でやられている親子でバスに乗ると何かが割引になるというような、子どもに引っ張られて親がバスに乗るようなイベントができるとよいと思う。

事務局：動機付けとして面白いと思う。実施するには関係者の協力や予算が必要なので、事務局で研究して動けるようにしたい。

委員：他の自治体の例だと、事務局がコースを作ってスタンプラリーなどを行う夏休み体験ツアーや、〇〇バスの日と称して自治体が運行するコミュニティバスは無料にするなどを行っている。

委員：名鉄のこども m a n a c a おでかけキャンペーンは好評なので、次回実施は決まっていなくても、前向きに検討されていると推察している。

委員：富山では、おじいちゃんおばあちゃんと公共施設に行くと、入館料等が無料になるという制度もある。

委員：出かける動機付けはいろんな工夫があり、利用体験が積み重なって公共交通機関を利用するようになるという、大切な考え方だと思う。

<協議結果>

承認

(4) 岡崎市地域公共交通計画の評価結果について

資料 8 に基づき事務局より説明

<以下、各委員の意見等>

委員：コロナ禍で一時期なかなかタクシーが捕まらなかったが、現状のタクシーの台数等はどうか。

委員：岡崎市内全体で言うと、190 台ほど動いている。アルバイトはたくさんいるが、朝晩の運転手が少ない状況である。

委員：一時期、アプリでのタクシー利用が増え、昼でもタクシーが呼びにくくなったと思うが、そのあたりはどうか。

委員：駅に待機しているタクシー車両にはアプリは入らず、駅から何メートルか離れていないといけないというシステムである。そういったことがあるので、岡陸タクシーとしては、アプリではなく電話のみでの受付をしているが、アプリには負けてしまう。

委員：令和 6 年度に比較してバスの利用者が減っているが、理由の 1 つにシェアサイクルの利用が増えていることがある。晴れの日には特にシェアサイクルの利用が伸びるが、逆に雨の日にはバスの利用が伸びる。シェアサイクルを否定するものではなく、移動の選択肢が増えているということを認識いただきたい。

委員：シェアサイクルにお客さんが流れている可能性があるということだが、行きはシェアサイクルで帰りはバスだとか、車からシェアサイクルに変えたとかもあると思うので、お互いがいい形で増えていけばいいと思う。

事務局：岡崎市のシェアサイクルの稼働率は高く、職員の通勤でも自転車が増えており、自転車ブームを感じる。電動キックボードも導入する事業者も出てきて、利用者からすれば選択肢が増えていいことだが、既存の公共交通とのすみ分けや連携を考えることが必要だと思う。

委員：公共交通への公的資金投入額が平成 30 年に比べて 1.4 億円増えているが、物価も上がっており総予算自体も上がっていると思うので、一般会計や物価の上昇率と合わせて見てみるのもよいと思う。

委員：東岡崎の駅で、各行き場に対してどの乗り場のバスに乗ればよいか簡単にわかるとよいと思った。

委員：東岡崎駅は 2030 年度を目標に改良工事をしており、案内の研究もしているが、利用者目線の御意見もいただければと思う。

委員：乗り場への案内は看板が必要になるが、現在が仮設ということで看板を付けることが難しい状況である。

事務局：観光客に快適に岡崎市内を巡ってもらう必要があるので、交通だけでなく観光目線でも検討する必要があると思うので、観光部局にも話をする。

委員：額田地域のコミュニティバスの利用者が増えている状況を事務局としてどう評価しているか。

事務局：額田のコミュニティバスは 4 路線あって、1 つの路線は平日毎日運行しているが、

その路線は小学校の特認校制度で通う子が使用している。特認校制度で通う子が1人増えれば、年間利用者数も伸びることになる。残りの3つの路線は週1日の運行だが、利用は減少傾向なので、柔軟性を高めるためにもライドシェアを検討したい。

<協議結果>

承認

(5) 地域公共交通計画別紙（案）について

資料9に基づき事務局より説明

<協議結果>

承認

(6) 岡崎市地域公共交通計画の改訂について

<以下、各委員の意見等>

委員：本日の説明事項(2)で法律の一部改正の説明があったが、今回の計画改定にはその一部改正の内容は含まれるのか。

事務局：国にも相談しながらアクションプランの検討等の事業組成を進めていきたい。

委員：基本ビジョン（2050年の岡崎市の将来像）のところで、1～3までであるが、目指すという意味では1よりも2の方が目指すべきものという感覚がある。

2に書かれている「自動運転の日常化」が1にも書かれていて、内容が車に依存しない暮らし方ができる街という趣旨になっているので、2では人間の生活の仕方として車だけじゃない、というようなタイトルにしてもらえるとよいと思う。

委員：今後のバリアフリー化の進展は、バス自体や駅やバス停も含めて、乗り降りがしやすいものが基準になっていくと考えてよいのか。

事務局：今回の改訂では、インフラとなる公共交通を軸に、街が形成されていく姿を描いているので、バリアフリー化が形成されていなければ公共交通と街づくりはセットにならないと思っている。

共助にもこだわっていて、本市の強みでもある地縁団体の地域コミュニティが徐々に脆弱になっているので、交通という1つのシステムを使いながら維持・強化していきたいという思いがある。また、利用者のかたから乗り合う際に恐怖心があると聞いているので、顔見知りの方々と乗り合うという文化を作っていきたいという思いもあって、共助にもこだわっている。いつも話をする幹・枝・葉の話だが、葉は幹や枝に養分を送るものであって、しっかり養分を送ることで丈夫な幹や枝になるので、この葉を皆さんの力で作ってほしいという思いがある。

事務局：利便性や定時制が高くないと公共交通は使ってもらえない。市の中心部、特に東岡崎～岡崎駅間では、渋滞によって定時制が保てていないという課題があり、今後のアクションプランでは、バス専用レーンの整備などをしていきたいと考えているの

で、御協力をお願いしたい。

委員：事務局の気持ちは伝わったが、それがこのビジョンの中にはまだ十分書かれていないので、基本ビジョンをブラッシュアップしてほしい。

委員：アジア・パラ協議大会が秋にあるが、その際のアクセスは臨時バスが運行されるのか。また、パラリンピックでは車いすのかたの来場もあると思うが、導線が確保されているかなどをお聞きしたい。

事務局：現時点では確定した計画があるとは聞いていないが、市の担当部署ではバス等での輸送を検討中と聞いており、車いすのかたも円滑に会場まで行けるように配慮されるものだと思っている。

委員：この他に気付いた点やご意見などあれば、2週間を目途に事務局へ連絡をお願いしたい。

<協議結果>

大きな方向性としては承認された。ただし、気付いた点等があれば事務局へ意見をする。また、ビジョンについては、事務局にて精査をする。

8 報告事項

(1) 矢作デマンドの停留所の変更について

資料 11 に基づき説明

<以下、委員からの意見等>

特になし。

9 連絡事項

委員：愛知県バス協会から、愛知県バス会社合同就職説明会のチラシを配布したので、周知等をお願いしたい。

— 会 議 終 了 —